



8月、セイハ、メサ、遂に日本のコンペに出場！！

※本稿は、日本山岳協会の承認を得て、第16回JOCジュニア・オリンピック・カップ大会プログラムより転載させていただきました。



第16回 JOCジュニアオリンピックカップ大会に寄せて

公益社団法人日本山岳協会

会長 神崎 忠 男

オリンピック・ドリーム2020とクライミング競技のオリンピック競技参入の期待も夢に終わってしまいましたが、オリンピック競技にノミネートされるまでになったクライミング競技、新しいスポーツとして世界各国の若い人たちにも人気が高い。しかし、オリンピック競技としてとらえるならば各国のクライミング環境の条件や水準、ある程度、同等の施設の設備など公平なクライミング環境が望ましいが、国によりその普及、振興の差が大きく同等な環境で出場するにはまだ限られてしまうといってもいい現状にも目を向けたい。特にアジアの国々におけるクライミング環境の格差の是正にアジアスポーツクライミングを統括しているアジアカOUNシルの支援なども得てアジアにおけるスポーツクライミングの発展につなげたい。先回の台湾で開催されたアジア山岳連盟(UAAA)会議でも日本から一つの意見として発言させていただきました。

そんな昨今の背景のなか、この度の富山県南砺市城端の桜ヶ池で開催されるJOCジュニアオリンピックカップに大会開催関係者の理解と努力でカンボジアから監督一名と高校生選手二名が参加することが実現したことに大きな意義と喜びを感じておられる関係各位に心から感謝申し上げます。

カンボジアには登山文化がまだ無いともきいていましたが、熱意ある日本人の指導のもとにスポーツクライミングが高校生はじめ若い人たちの間で普及してきたものの、公式な大会が開催できるような基準を整えたクライミングウォールがなくクライミング選手として公式水準の大会に出場することを目標とするなか、カンボジアクライミング連盟から日本山岳協会に支援の要請があり、その一環としてこの度のJOCジュニアオリンピックカップへのカンボジア選手の出場が実現したことになります。この出場に際しては日本の各選手、関係者のみなさんからも暖かい支援と交流をお願いし、カンボジアの選手に喜んで帰っていただき更なるスポーツクライミングの発展に期待をしていきたい。

また、このJOCジュニアオリンピックカップも16回の競技大会開催の実績を重ね、伝統的クライミング大会として日本のスポーツクライミングの発展に大きく寄与されてきたことに、開催都市富山県南砺市、運営に携わる役員、そして参加される選手の皆様に心より感謝申し上げます。益々期待する大会であることを信じて成功裏の開催をお祈り申し上げます。

日本山岳協会からの支援活動として、8月10日～12日に富山県南砺市で開催されたクライミング競技会「第16回JOCジュニア・オリンピック・カップ大会」に、ACNのUTDの高校生2名、セイハとメサが特別招待参加した。左記は、JMA神崎会長がそのプログラムの巻頭コメントで、カンボジアの高校生を招聘した深く暖かい背景が述べられている。

カンボジア・ユース・クライマーの招聘・研修プロジェクト完了のお礼

●下記の団体から、格別のご協力をいただきました。お礼申し上げます。(順不同)

・(株)モンベル様、・ロストアロー(株)様、・軽登山靴倶楽部様、・株式会社・大和様、・クライミングジム・ビッグロック様、・佐久平ロッククライミングセンター様、クライミングセンター・アートウォール様、東京新聞(「岳人」編集部)及中日新聞様、山と溪谷社様、日本勤労者山岳連盟様

●様々な個人の方々からもご協力いただきました。お礼申し上げます。

3人のカンボジア人を快く受け入れていただいた、みなさま、さまざまな場面でご協力いただいたみなさま、資金集めのパーティーやハイキングを企画された方々、参加していただいた方、また、3人の移動や宿泊、食事に骨を折られたACNの仲間や友人たち、みなさま、ありがとうございました。

3人は、7/14に先発で来日したセイハを皮切りに、8/8にはスムロン監督とともにメサも合流、コンペに出場後は、浅井和英さんの指導でアウトドア講習の指導者としての講習を受け、JMA主催のお別れ会のあと、予定通り8/20に無事母国カンボジア、シエムリアップに到着しました。

前号の繰り返しになりますが、本プロジェクトは下記の経緯、主旨で実行されました。招聘までの事務処理、及びコンペ出場に際して暖かいご指導をいただいた、日本山岳協会及びその関係者の方々重ねてお礼申し上げます。

2013年1月に、ACNを通じて、カンボジア・クライミング連盟(CCF)より、日本山岳協会(JMA)へ、始まったばかりのカンボジアのクライミングを正しく普及するための支援要請があった。そこで、8月10日～12日に富山県南砺市(なんとし)で開催される青少年を対象にしたクライミング競技会「第16回 JOC ジュニア・オリンピック・カップ大会」への参加をクライマックスとしたカンボジア人・ユースクライマーの研修計画を立案し、実施した

・目的

1. カンボジア・ユース・クライマー対象に、日本国内にて下記の研修を行う
 - ① クライミング技術講習及びトレーニング
 - ② 倫理、マナー講習
 - ③ 国際レベルの競技会体験「第16回 JOC ジュニア・オリンピック・カップ大会」に特別参加
2. 競技会参加、親睦会等、滞在中のイベントを通じて、日本とカンボジアの親善、交流に寄与する

・期間

2013/7/14 ~ 2013/8/20

「第16回 JOC ジュニア・オリンピック・カップ大会」成績

2回戦行われた予選ラウンドで、1日目に17位につけていたセイハは2日目を終えて合計予選20位、メサは23位、2人とも決勝には進めなかった。しかし、カンボジアのクライミング環境や社会状況など、本人にはどうしようもない条件や、ほとんど実戦経験を持たない彼らとしては、決して悲観すべき内容ではなかった。彼らのクライミングはスタートしたばかりだし、2013/8/11のそのとき、彼らのクライミングはようやく世界へ向かって開かれようとしたのだ。



第16回ジュニア・オリンピック・カップ大会・競技場全景



予選2日目、メサのアテンプト



予選2日目、セイハのアテンプト



大会の間、彼らはキャンプ場で過ごした



中日新聞の取材を受けて、JMA 神崎会長と記念写真

派遣メンバー3名のプロフィール

ソー・セイハ(Sor Seyha) 10マカラ高校 グレード11(高校2年相当) 競技出場(ジュニアクラス)

2011年1月よりクライミングを始めた。同年6月のトレーニングコンペで5.11bをオンサイトして優勝、翌2012年1月の第1回アンコールカップで、5.11dの超決勝をオンサイトして優勝、2012年12月の第2回アンコールカップでも、5.12bの超決勝でただ一人最終ホールドにタッチ、フォールはしたが最高ポイントで優勝した。このときのルートセッターは信州佐久の浅井和英、それ以前は、アンコールクライマーネットの代表を務める伊藤忠男が担当した。本人は外岩でのクライミングを熱望しているが、未成年でもあり、経験はまだ僅少である。学業成績が良く、低学年生への指導力も良好で、カンボジアのクライミング初世代のリーダーとして期待される。

キム・メサ(Khim Mesa) 10マカラ高校 グレード12(高校3年相当) 競技出場(ジュニアクラス)

セイハ同様、2011年1月よりクライミングを始めた。同年6月のトレーニングコンペで2位、翌2012年1月の第1回アンコールカップで、5.11dの超決勝でセイハに敗れ、2位、2012年12月の第2回アンコールカップでは、5.12bの超決勝で4位。すでにACNのインストラクターも勤める。人工壁よりも、外岩でのセンスが際立ち、また初心者への講習も丁寧で、その分野での適性を窺がわせる。4歳で父親と死別。家業の農業ではすでに一家の大黒柱である。

セム・サローン(Soem Saran) プレエンコサ中学校教諭 監督

ACNのカンボジア・リーダー、カンボジア・クライミング連盟・事務局

収入の部			
(合計)		¥805,800	
(内訳)			
			本プロジェクトへの寄付(7/1~8/20)
			¥512,800
			皇親基金等例年の寄付(7/1~8/20)
			¥147,000
			ACN主催パーティー3回の会費
			¥117,000
			Tシャツ29枚売上
			¥29,000
支出の部			
(合計)		¥782,351	
(内訳)			
(現地諸経費)			
			航空券 3人+付添1.5人
			¥373,786
			※USD \$から円換算
			バスポート2人、ビザ3人、申請・取得のためのプノンベンへの交通費
			¥68,944
			レート¥99.2/\$ (2013/6/30)
			旅行者保険3人
			¥13,690
			Tシャツ追加注文40枚
			¥15,872
			支度金3人
			¥17,856
(国内諸経費)			
			浅井コーチへセイハ滞在費、コンペ参加旅費3人、岩場研修ガソリン代
			¥250,000
			セイハ週末イベント参加交通費、観光切符代3人、ガソリン代
			¥18,830
			ACN主催パーティー3回実施費用
			¥18,600
			労山短 期間掛け捨て保険(2人)
			¥4,773
残金		¥23,449	※2013年度ACN一般会計へ繰入

交流イベント

カンボジア人3名の日本滞在中、下記の日程で親善・交流イベントが実施され、今回の招聘プロジェクト及びカンボジアのクライミング普及事業への支援・寄付をお願いしました。ご協力、ありがとうございました。

日程	イベント	開催場所
7/20(土)	夕食会	佐久平ロッククライミングセンター
7/21(日)	蓼科山モイモイハイキング	
7/27(土)	夕食会	東京四谷Fプラザ
7/28(日)	入笠山モイモイハイキング	
8/3(土)	夕食会、学習会(なぜカンボジアでクライミング?)	東京調布
8/4(日)	高尾山モイモイハイキング	
8/17(土)	カンボジア/日本、少年少女クライミング交歓会	小川山
	夕食会	甲斐大泉ラッセル邸
8/18(日)	お別れ会(夕食)	東京四谷鮎乃家



甲斐大泉の山荘で行われた夕食会



入笠山で大先輩たちから山の同定を教わるセイハ



入笠山の湿原を歩く



蓼科山、山頂にて



高尾山のセイハ



高尾山、山頂



入笠山、山頂で、JMA 神崎会長と、軽登山靴倶楽部の方々に囲まれたセイハ



コンペの2週間前、浅井コーチと会場となるウォールをトライシに行ったセイハ

第4期（2012年度）決算報告（2012/7/1～2013/6/30）

2012年度の決算を報告します。

★損益計算書（2012年7月1日～2013年6月30日）

科 目	金 額	
[経常収支の部]		円
(事業収支の部)		
【収入高】		
一般寄付金		¥2,435,553
一般会員年会費		¥10,000
オリジナルグッズ売上寄付金		¥0
事業総収入		¥2,445,553
【一般管理費】		¥2,604,447
事業損失		¥158,894
(事業外収支の部)		
【事業外収益】		
受取利息		¥245
【事業外費用】		
経常損失		¥158,649
当期損失		¥158,649
前期繰越損失		¥1,660,831
当期末処理損失		¥1,819,480



※2013/6/30のレートを採用しすべて円に換算している

★貸借対照表（2013年6月30日）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流動資産】	¥573,278	【流動負債】	¥453,440
現金	¥138,048	短期借入	¥453,440
預金	¥435,230	未払い金	¥0
【固定資産】	¥30,000	預かり金	¥0
【有形資産】	¥30,000	【固定負債】	¥762,762
人工壁施設	¥30,000	長期借入金	¥762,762
		負債合計	¥1,216,202
		資 本 の 部	
		【資本金】	¥0
		【欠損金】	¥158,649
		当期末処理損失	¥1,819,480
		資本合計	-1,819,480
資産合計	¥603,278	負債・資本合計	¥603,278

※2013/6/30のレートを採用しすべて円に換算している



●次年度(2013/7/1～2014/6/30)事業計画

1. 第3回アンコールカップ開催計画

昨年同様、ACNカンボジアは、ACN日本の全面支援の上、シムリアブ・ユース・クライミング・フェスティバル2013を開催する。期間は10/20～翌年2014年1月19日まで。フェスティバルのクライマックスとして、コンペ、第3回アンコールカップが開催される。これらのイベントに、日本からのボランティア指導員派遣諸経費を除いて、\$2000の支援金が見込まれている。

2. NPO法人化案について

ACN日本側は、2014年の7月1日を目的にNPO法人化する方向である。NPO化に際して下記の業務追加、変更が見込まれている。

- ・定款： 現行を修正
- ・会計処理
- ・会員管理業務
- ・議事録管理業務
- ・共通資料の一元管理化（サーバー格納）

3. 人工壁再構築作業部会について

シムリアブ州国立競技場の敷地内、または同体育館内に完全移転するプランAと、現状と同一敷地内に増設し、増設分の完成後、旧来部分を大規模補修する、プランBを模索。当該年度は、その選択と設計、及び施工の可能性調査までとし、諸費用に¥200,000を見込んでいる

※年度ごとの決算資料、業務体制、次年度事業計画、及び、設立資料(定款、設立趣旨書)などは、下記、ACNのWebサイトからご覧になれます。 www.angkorclimbers.net [About] →[more info] を参照ください。

From ACN's Desk : 事務局から

・NPO法人化へ向けて会員制の整備を開始しています

ACNへ入会をご希望の方は、随時下記宛て、お知らせください。入会要項、必要資料等、ご希望の方法で送ります。一般個人会員の年会費は¥5,000です。事業年度(7/1～翌年6/30まで)に対応して納入をお願いしています。みなさまの支えがカンボジアの青少年の、健全な成長を継続する確実な助けになります。今年度は10/31現在まで25名の方が新たに入会を希望されています。

■アンコールクライマーズネット（日本）

伊藤忠男 気付

〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506

tel. & fax +81-(0)42-498-2488 Email: info@angkorclimbers.net

※団体会員(法人、任意団体)の入会要綱については現在検討中です

・寄付・寄贈について

2013/10/31 現在までの、寄付金累積総額は、¥5,794,073 + US\$13,660 となりました。また、里親基金累計総額は、¥1,970,000 + US\$1,250 です。ご寄付をいただいた方73名様、クライミング装備その他をご寄贈いただいた方33名様(一部記録もれの可能性あり)、及び里親となっていた方4名様となっています。大変ありがとうございました。

2013年6月～10月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお本お知らせは、email版ニュースレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしています。

一 寄付

浅田信一郎様、林武子様、鴨志田智也様、太田広和様、榎田猛彦様、沢田千津子様、大岩明子様、澁谷和嘉子様、福神和子様、才原明男様、小八重桂子様、虎本節子様、株式会社・大和様、榎沢節子様、小林光子様、中江恵美子様、榎沢健治様、神崎忠男様、吉富明様、阿部千依様、安田至宏様、野草茶のかりん、軽登山靴倶楽部様、高橋千鶴子様(順不同)

一 寄贈 ※寄贈及び奉仕活動をもってご支援いただいた方も含みます。

(株)モンベル様、ロストアロー(株)様、有泉重正様、有泉綾之様、阿部千依様、才原明男様、栗原俊雄様、榎沢健治様、伊藤洋美様、今田明子様、北山真様、澤田祥男様、澤田千津子様、神崎忠男様、若江勇一様、まるこ&ため様、鴨志田智也様、高木智子様、田崎奈緒美様、塚内尚子様、平川真司様、福永未帆様、船山ご家族様、森下健七郎様、安田至宏ご家族様、船山ご家族様、軽登山靴倶楽部様、清水不二様、堀田圭子様、浅井和英さんのお弟子さんのご家族様、他に記録漏れした男性一名、女性一名(軽登山靴倶楽部の方でしょうか、すみません)(順不同)

一 里親

堀田圭子様、才原明男様、榎沢健治様、清水不二様(順不同)

☆☆☆ また、公式資料類の英文化、英文校正は、Ms.ジェラルディン、モーガン三恵子様、福神和子様ボランティアでやっていただきました。ここに記して感謝いたします ☆☆☆

★★★ 寄付及び会費専用口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010
番号 75286831
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店
預金種目：普通預金 口座番号：0081781
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認いただけます。
http://www.angkorclimbers.net/can_donation.html

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）
伊藤忠男気付
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）
Angkor Climbers Net (ACN)
tel. +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

・郵便住所
POBOX 93044, Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

・所在地
c/o Moloppor Café
Wat Bou village, Salakomrauk commune
Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

■ email info@angkorclimbers.net

留守を守るYOUTHメンバー



←
セイハとメサの不在を守るチェニイ16歳(左から2番目)と、ACN女子の3人、左からモム、チェンダ、シナット。

→
カンボジア・クライミング界、及びシェムリアップ州教育機関の指導者でもある、Mr.ウン・シレイディ氏。部下の送別会にて、レストランで、きさくでユーモアのあふれる挨拶をする

カンボジア・クライミング連盟・理事長



contents

- 01 JMA 神崎会長のあいさつ
- 02 カンボジアのユースクライマー研修・招聘計画実施報告
- 06 第4期決算報告
- 07 From ACN's Desk 事務局から
NPO 法人化に向けて
会員制の整備と強化
寄付・寄贈について

※写真、地図、イラストはすべて ACN
オリジナルコンテンツです

editor's note

鮮度が落ちましたが、本号にて、やっとなメサ、セイハの日本でのコンペ出場の成績をお知らせできました。体を壊したこと、さらに ACN の決算も重なり、仕事のみみるみる遅れました。今号は例年なら 8 月末に発行するものでしたが、ぼちぼち 11 月の声も。お詫びします。アンコールカップは例年通り 12 月に開催します。浅井和英君が僕に代わって現場でファシリテータを担います。ラオスや、シンガポールの友人たち、カンボジアに住む友人、そしてスロン、キムスロイや日本の ACN の仲間がみんなて助け合ってコンペを開催します。みなさんも、よかったら是非応援してください(Chu)

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2013 年 10 月号 NO. 13 2013 年 10 月 31 日発行

非売品

発行人 伊藤忠男

編集人 伊藤忠男

発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)

〒182-0025 東京都調布市多摩川 5-3-1-506

tel 042-498-2488 fax 042-498-2488

www.angkorclimbers.net